



第18号 2016年7月19日発行
五ヶ瀬川の豊堤を守る会

ました。

他の土木

遺産と違う

のは、延岡

市の一番の

繁華街にあ

り、誰もが

手で触れ肌

で感じても

らうことが

出来る点で

す。また、観光客にも歩いて

見てもらうことが可能です。

昨年十一月二十四日には土

木遺産認定の祝賀会を開催し、

関係者と共に喜びを分かち合

いました。

話は変わりますが、今年の

六月十四日から十七日まで四

日間、会員六名で豊堤のある

岐阜県岐阜市の長良川と兵庫

県たつの市の揖保川を視察研

修に行きました。(三頁に特集)

学習や現地視察等、おつき

合い頂いた国土交通省河川工

事事務所の方々には大変お世

話になりました。有り難うご



豊堤に学ぶ治水の歴史

つあり、台風の際に大水害に
みまわれたそうです。そこで
大規模な治水工事が古くから
たびたび行われてきました。

宝暦時代の一七五三〜五五
年には、千人の薩摩藩士が治
水工事のために、この地に派
遣され「お手伝い普請(ぶし
ん)」をしました。この事業が
難関だったため自殺者や犠牲
者を多く出し、さらに薩摩藩

は借金が増え、その返済に永
く苦しんだと言う歴史をお聞
きました。

明治時代には、政府が招聘
したオランダ人技師ヨハニ
ス・デ・レーケが、日本に多
くの治水技術を伝授しました。
また、ひびの入った堤防に
豊を張り付けて補強するなど、
水防には昔から豊がよく使わ
れたそうです。かつては水防

法が警察権を上回り、一般家
庭の豊を勝手に持ち出して
も罪にならなかったという
話もお聞きました。それだ
け水害が住民生活に与える
影響が大きかったというこ
とでしょう。

延岡の豊堤との直接の関
係は見出せませんでした、
これらと何らかの関わりが
あるのかもしれないと思っ
たところです。

兵庫県たつの市の場合には、
昭和二十二年、当時の市長と
姫路工事事務所長が長良川
を見学して特殊堤(コンクリ

ートの堤防)を造ることにし
ました。最初は壁のようなも
のにする予定でしたが、住民
から「ふだんは揖保川が眺め
られ、洪水の時には自分たち
も豊を入れて協力するから杵
だけにして欲しい」と要望が
あり、それを受けて豊堤を造
ったそうです。

現在、八百二十枚の豊を防
災センターに保管しており、
大規模な水防訓練の時には豊
を差し込む訓練を行っている
とのことでした。

延岡市も豊堤に豊を入れる
水防訓練が出来ると市民の防
災意識も向上するだろうと思
った次第です。

今回の豊堤の視察は防災都
市連携を行う上でも非常に有
意義だったと思っています。

現在は、市民にもっと豊堤
に親しみを持ってもらうため、
豊堤に豊を差し込む等身大の
人物像(大正末期から昭和初
期の当時の様子)の制作に取
り組んでいます。

今後とも皆さまのご支援、
ご協力をお願い申し上げます。

会長 木原万里子

長良川の豊堤の前で。右から2人目が筆者

選奨土木遺産に認定

式典と祝賀会に 100 人

五ヶ瀬川の豊堤が昨年九月十四日、公益社団法人土木学会の選奨土木遺産に認定されました。

同学会は、幕末から昭和二十年までに造られ、技術・デザイン、系譜（地域への貢献度や地域の人たちに愛されていること）の優れた

土木施設を「近代土木遺産」と定義していますが、「選奨土木遺産」は、その中でも特に優れたものに与えられる認定です。

当会は同三月三十日、同学会に推薦調書を提出。現地審査（同五月八日）、福岡の西部土木学会推薦委員

会でのプレゼン（同十四日）を経て、認定が決まりました。



銘板を取り付けた石碑

式典は強風の中で、木原会長と楠本敦延岡河川国道事務所長が銘板を揭幕し、来賓7人がくす玉を開きました。写真は式典後の記念撮影



盛り上がった祝賀会のアトラクション。勝ったのは富高たまえさん（右）です。賞金は寄付してくださいました



右は「豊堤の詩」の桃木まほさんとご両親。左は志賀三智延岡河川国道事務所副所長



た。県内で六施設目、延岡市では北方町の綱ノ瀬橋梁に続き二施設目ですが、市の中心部に土木遺産があることは、全国的にも珍しいと思われまふ。

当会と豊堤管理者の国交省延岡河川国道事務所、延岡市の三者で実行委員会（木原万里子実行委員長）を結成し、同十一月二十四日、北町の豊堤モニユメント前駐車場で記念式典を開催。また、式典終了後に紺屋町のホテルメリージュ延岡で祝賀会（当会主催）を開きました。国、県、市、防災・観光関係者、各区長、当会会員の計約百人の出席があり、楽しくにぎやかに栄えある認定を祝いました。水防功労者国交大臣表彰の祝賀会（同二月十七日）から一年もたたないうちに、このような大きなお祝いを再びできるのは誇らしいことです。



石像制作協力を宣言してくださった延岡工業高校の井吾吾教頭（左）と西川和弘主任

防災フェスタに出展

第7回延岡市防災フェスタが昨年11月15日、市消防庁舎であり、当会からも出展しました。畳を差し込む体験や紙芝居のコーナーが大変好評でした。土木遺産認定のPRもいたしました。



他県の豊堤は どんな形？



↑ 五ヶ瀬川 (延岡市)

高さ60cm。総延長は大瀬川を含めて2kmあったが、現存するのは980m。開口部は176cmで五八間用。脚の間の空間はしゃれた扇形。施工主や時期は不明だが昭和9年の新聞に写真がある。周辺は繁華街で人家が堤防に接する。

《五ヶ瀬川》延長106km、流域面積1820km²。大正8年に河川法準用河川となり改修されたが、水上がりはやまず、市民の強い要望で昭和26年、国の直轄河川に編入。

(国交省九州地方整備局 延岡河川国道事務所)



旧龍野市域の水防訓練 (今年5月) 提供写真



揖保川町域



御津町域

← 揖保川 (兵庫県たつの市)

国交省の前身の建設省が長良川の豊堤を視察して施工した。周辺は龍野城の城下町。壁状のコンクリート堤を造る計画だったが「普段は揖保川が眺められるようにしてほしい」との住民の要望で豊堤になった。高さ135cm。旧龍野市域に2721m (1277枚分)、揖保川町域に253・4m (105枚分)、御津町域に159m (62枚分)。計3・1km1444枚分。平成17年に市町合併。

形は大別して2種類。旧龍野市域は本間 (横191cm) を2枚並べてはめる。河川側の中央に押さえがある。開口部は2枚分3・85mで、昭和24～32年度施工。揖保川町域と御津町域は本間1枚ずつ。揖保川町が昭和32年、御津町が昭和30～32年に施工。老朽化でひび割れ、鉄筋露出などが見られたため、平成13年度に補修。炭素繊維シートを貼った。御津町域の豊堤は白く塗られている。

実際に使ったことはないが、使えるように昔の本間の豊820枚を防災センターに常備。平成13年以後、大規模な水防訓練の時には水防団が豊を入れる訓練を行う。「現役」の印象。

《揖保川》延長70km、流域面積810km²。

(国交省近畿地方整備局 姫路河川国道事務所)

← 長良川 (岐阜県岐阜市)

高さ95cm。施工当時のまま延長1・6kmある。開口部は横176cm (五八間用) だが、短いところもある。鉄の棒で補強。ガードレールのように見える。国交省の前々身の内務省が、木曾川上流改修工事 (大正10年着手) の一環で昭和8年～15年に施工した。

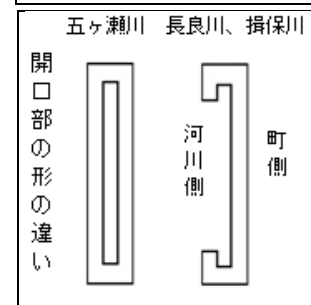
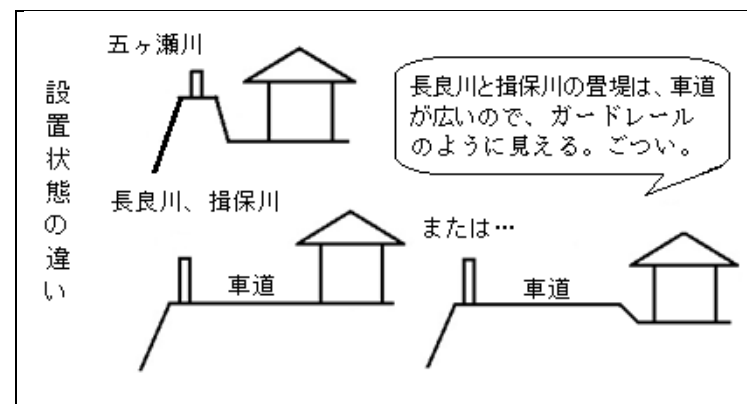
鶴飼いが盛んな地域。右岸の鶴飼屋 (うかいや) 地区には、鶴匠や船頭が住む。左岸の川原町 (かわらまち) は岐阜城 (金華山) の城下町。また、かつては水浴場としてにぎわっていた。

豊堤を使った記録はない。伊勢湾台風 (昭和34年) の時、豊をはじめようとしたが、サイズが合わず、はまらなかったという話がある。

普段は堤防が途切れているように見えるが、増水時に電動で閉める「陸閘 (りっこう)」という大規模な水防施設がある。

《長良川》延長166km、流域面積1985km²。木曾川、長良川、揖斐川を合わせて「木曾三川」といい、合計流域面積9100km²。三川は互いに関係し合い、甚大な水害をたびたび引き起こしていたため、古くから国が直轄管理している。

(国交省中部地方整備局木曾川上流河川事務所)



● 豊堤のある3カ所の共通点

城下町で風光明媚。人家が迫っているの、十分な幅の土手を造ることができない。

● お世話になった皆様

▽木曾川上流河川事務所＝戸谷三知郎副所長、阿部聡事業対策官
他5人の皆様、坂井田節・長良川環境レンジャー協会理事長

▽姫路河川国道事務所＝能勢伸一・河川管理第一課長
(平成28年6月14～17日、視察研修) 参加者＝木原万里子、芝弘光、上田耕市、木村民子、仕田嘉代子、奴田原君枝

石像制作の計画が進んでいます



め、伊東珠貴・延岡学園高校美術教諭に粘土でミニチュアを作っていただき、見本として提供する予定です。

石像を彫る過程では、工業高校土木科の生徒たちが、キャリア教育やふるさと教育の一環で関わってくれることになっています。畳堤の意義を知った生徒たちが、将来、守る会の後継者になってくれることが期待されます。写真右上は、石像制作の手順を説明する林田社長。



水辺で乾杯！

七月七日午後七時七分の「タナバタイム」に、紺屋町のホテルメリージュ延岡横の畳堤前で「水辺で乾杯」というイベントがあり、本会からも六人が参加しました（写真上）。

全国各地の水辺で同時乾杯し、水辺の風景を見直そうという企画で、昨年からは始まったそうです。延岡では初。同ホテルからお誘いがありました。乾杯に使ったのは延岡三蔵のお酒、おつまみは延岡発祥のチキン南蛮。そばを流れるのは水質日本一の五ヶ瀬川。そして日本最古の畳堤。この日は全国二百十五カ所で乾杯が行われたそうです。



延岡会場が一番良かったのではないだろうか。来年も行う予定とのこと。みんなでも参加しましょう。

清掃・除草活動

平成二十七年度は五回行いました。写真は九月二十七日、「エンジン01」を前に行ったものです。国、県、市、区長会から多数参加していただきました。ありがとうございます。

五ヶ瀬橋下流右岸の工事終わる

船倉町の五ヶ瀬橋南詰めから下流の右岸堤防で国交省が行っていた補強拡幅工事が昨年11月に終わりました。一時取り外されていた畳堤も位置をずらして再設置されました。老朽化でひび割れのあった堤防を補強することが最大の目的でしたが、のり面は、城下町に似合う石垣風のデザインが採用されました。

堤防の天端（てんば）幅は、水防車が通れる3mに広がり、転落防止柵も設置されましたので、畳堤に触れながら歩くことができます。

写真下は、土木遺産認定記念式典に出席した皆さんの“初歩き”です。



国交省は当初、板田橋より下流のすべての右岸で同じ工事を行う予定でしたが、予算不足や工程の一部変更があり、板田橋ー五ヶ瀬橋間の工事は止まっています。このため守る会と畳堤沿線地区は昨年8月、会長と区長13人の連名で工事継続を求める要望書を提出しました。

（編集後記） 畳堤ツアーは大変勉強になりました。五ヶ瀬川の畳堤は、施工主体や施工年がはっきりしません。ツアーから帰延後、ずいぶん調べましたが分かりませんでした。どこかに岡富村、恒富村時代の資料はありませんか？

五ヶ瀬川の畳堤を守る会
（事務局）

〒八八二一〇〇六三

宮崎県延岡市古川町

七四番地一

社会福祉法人光紀会

ひかり工房内 矢野 光孝

TEL 〇九八二（三四）一三八九

費用面についても、清本英男・延岡商工会議所会頭、谷平興二・延岡観光協会代表理事、山口美三雄・延岡市区長連絡協議会会長に賛同いただき「趣意書」を作成。現在、本会役員が企業や団体を訪問して協賛金募集に努めています。

石像のデザインについては、本会の希望を正確に伝えるた